

陸上風力発電によるオフサイト型VPPAを締結 ～年間約8,800トンのCO₂排出量削減を見込む～

株式会社東海理化（本社：愛知県丹羽郡大口町 代表取締役社長：二之タ 裕美）は、再生可能エネルギーの導入を加速させるため、株式会社ユーラスグリーンエナジー（本社：東京都千代田区、代表取締役：西浦 寛）と、陸上風力発電所を活用したオフサイト型VPPA※を締結しました。本取り組みにおける環境価値を活用することで、年間約8,800トンのCO₂排出量の削減を見込んでいます。

※オフサイト型VPPA：企業と再エネ発電事業者が、環境価値の取引を行う契約形態の一つ。敷地外に設置した再エネ電源で発電された電気由来の環境価値（CO₂排出量ゼロであることを示すことができる価値）を活用し、実質的な再生可能エネルギー利用を実現できる。

当社では、2021年に「カーボンニュートラル戦略2030」を策定し、CO₂排出削減に向けたさまざまな施策を推進してきました。これまでに、敷地内への太陽光発電の導入拡大や、オフサイトPPA、VPPAサービスの活用など、再生可能エネルギーの活用を積極的に進めてきました。

今回のVPPA締結により、これまで活用してきた太陽光発電やバイオマス発電に加え、新たに風力発電由来の環境価値を導入することで、再生可能エネルギーの多様化を推進します。また、風力発電は昼夜や季節を問わず発電が期待できることから、より安定的な再生可能エネルギー利用の実現に貢献します。これらの活動により、当社の再生可能エネルギー活用によるCO₂排出削減効果は、年間約25,000トンとなる見込みです。

今後も当社は、再生可能エネルギーの導入をはじめとする環境負荷低減の取り組みを積極的に推進し、カーボンニュートラル社会の実現を目指してまいります。

（ 詳細はユーラスグリーンエナジーの記者発表資料をご参照ください。 ）

<https://www.eurus-green-energy.co.jp/cms/wp-content/uploads/20261001.pdf>

【本件に関するお問い合わせ先】 株式会社東海理化 総務部広報室（0587-95-5211）